



赤羽別院報 第49号
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽土師中14-4
 Tel・FAX (0563)72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

講師プロフィール
 藤場 俊基 (ふじば としき)
 1954 (昭和29)年 石川県生まれ
 早稲田大学政治経済学部卒業
 大谷専修学院本科修了
 大谷大学大学院博士課程
 真宗学専攻 単位取得
 現 金沢教区 常設寺 住職
 著書 『往生浄土の道』
 『なぜ南無阿彌陀仏なのか』
 『お寺は誰のもの?』 他 多数

念仏の教えに生きる



なぜ南無阿彌陀仏なのか

私はお寺が嫌いでお坊さんでなく商社マンになろうと思っていました。
 若い頃は「なんなんだぶつ」と声に出すことがいやで「信心もはつきりしないのに、念仏したって何の意味もないんじゃないか」と抵抗していたのです。
 私の中で、真宗の教えと念仏申すことが、どうしてもつながらなかつたのです。でも、理由がはつきりすれば称えてもいいのかと思っていたので、5年間勤めた銀行を辞めて勉強を始めました。
 あれから30年近く経ちますが「なぜ、南無阿彌陀仏なのか」が、今も私の問題意識と聖教に学ぶエネルギーになっています。

御文には、「六字の名号のいわれを知らなければ、念仏してもいたすららぬ」という趣旨の言葉がたくさん出てきます。当時は、それらのことばが我が意を得たりと思ひ、振りまわしてしましました。
 今ではむしろ逆に「信心をはつきりさせたから、念仏しなから考えればいいですよ」と皆さんには申し上げていますが、若い頃の私と同じで簡単に受け入れてもらえませんでした。称名念仏を受け入れられないところに、人間のこころの慢さ・やこしさが現れてくるのです。
 では、蓮如上人はどのような人を念頭において、あのようなお手紙を書かれたのでしょうか。恐らく、朝から晩までお念仏を競争するようないわばお念仏をたくさん申すことで、自己肯定している人に向って言われたのだと思います。
 私は念仏したくないという自分の思いを、蓮如上人のお言葉で自己肯定しようとしていました。その意味ではやはり同じだったのです。
 このように、何か課題を持ってお聖教を讀むと、少しずつ問題が見えてきます。

解脱と共有

仏になろうとする生き方を、お釈迦様の人間観と言います。修です。これを一人ひとりとやっていたら大変で、まじでできません。
 そこで、菩薩は回向しようとした。自分の努力精進の結果が、皆と同じように現れるのか。どうしたら成り立つのか。そのことを実現して仏になろうとする。
 自分が解脱するといふこと、仮に解脱できなくてもいい、皆で仏になる道を模索する。ただ、覚りといつても個人の体験にすぎないし、大昔にこんな人がいたという話で終ってしまします。そこで人に話をして伝わっていく。苦悩を皆で共有していく。苦悩からの解脱と共有が仏教の二つの柱なのです。
 やがて、仏法は「如是我聞」から始まる経典として語り継がれていきますが、その中に助道いも多々出てきます。勘違いでも、聞いた人の責任で伝わって、続いていくものなんです。

回向

お釈迦様は、後世の人たちを何を望んでいたのか。教えを共有するにはどうすべきかと、反省と課題を持った人たちが登場したのです。
 私が仏に成るといふことは、皆さんも仏に成るといふことです。中心になる概念は「回向」です。そこで、どういふ仏に成ろうかと考えて、どの方法で成就していくか。それが願と行です。それがはつきりしたら実行する。修です。これを一人ひとりと述べておられます。



これが大乘仏教の基本です。例えは、インドの龍樹・天親菩薩は、このような考え方で仏教を捉え、生き抜いた方々です。

法蔵菩薩の願い

大乘仏教運動の考えを経典にして、その人物の説法を物語にして語っていく。その中のひとりが法蔵菩薩です。
 まず願を立て、行を考え、一切衆生と共に仏に成つていこうとする、それが『無量寿経』のテーマであります。
 その時、一切の衆生を仏にする国土を建立しようといふ願を立て、実現するまでの企画はできるのですが、どうやって知らせるのが問題です。
 そこで、法蔵菩薩は、「私の名前を呼んだものは浄土にお迎えします。」と知らせようとした。これが回向です。
 宗祖は、「一念多念文意」で「回向は本願の名号をもって十方の衆生にあたえたもう御のりなり」と述べておられます。

称名と聞名

念仏とは何か、仏のことを念(おも)う。憶念といえます。それについていろいろな念い方があります。「覚り」や「智慧」について考えることも念仏です。また、姿・形や言動を思い浮かべること、全て念仏に含まれています。
 浄土真宗の念い方は、み名称えて念を念う。名前を口に出して称えることで念うのです。
 もう一つ考えておきたいのは、信心と称名の関係の問題です。信心と称名はどちらが大事か。私以前は当然信心が重要だと思っていました。
 この問題は今でも多くの人気がなっている関心事の一つです。それを七高僧の一人善導大師が、長い苦悶の末に明らかにして下さいました。
 称名念仏が本願の意(ごころ)

つまり、名前を届けて伝わること、返事をもらう訳です。これは重要ですよ。
 「南無阿彌陀仏」という名前が共有されることで、話題にできるようになり、その名と共に精神が伝わっていくのです。私たちと浄土をつなぐ名前、人間の煩悩が生み出したものではなく、必ず教えられ、進められて出合っていくものなのです。



何故か?有名な『歎異抄』の「信心一異の詳論」で、親鸞聖人と先達格の勢願房・念仏房の信心についての見解が分かれたように、私たちは信心がある念仏は尊く、そうでない念仏は尊くないと分別します。とても同じだとは思えない。称えている人の条件や属性によって、念仏の価値があったりなかったりすると思っているのです。これが一番の問題ですね。

念仏する時に信心が関係すると思っていたが、実は称える側には関係なく、聞く側に信心が関係してくるのです。分別している私に問題があるから、自分の念仏が嘘っぽく思えるのです。
聞其名号・信心敬慕
 信心を称える側の問題と思つて念仏を品定めし、思い込みや妄想で仏法をねじ曲げて考えるのが私たちの心です。自分のことだけ考え、自分が浄土へ往けると思つて敬慕ではあります。
 周りのいるお念仏する人の姿を見て、素直に喜ぶこといろいろ申しましたが、まづ大切なことは信心があるとかなないかということに気がせず、念仏させてもらえばいいのだと思ひます。
 平成28年7月11・12日 第13組・夏期真宗講座 藤場俊基師 法話要旨

であると結論を出されました。私達には、称えることも大事だけれど、まず聞くこと、そして受け止めること、聞くことでは尊く、尊くも、念仏が大事といわれても、信心こそが大事なのではないかという思いは残りますよね。

別院行事の「案内
 除夜の鐘(初鐘) じよやのかね(はつがね)
 12月31日(土) 午後11時30分より
 鐘撞きは先着順・どなたでも可
 甘酒・菓子等を用意しています。
修正会 しゅしようえ
 1月1日(日) 午前0時30分
 法話 輪番 三浦 真教師
双全講 そうぜんこう
 1月15日(日) 午後1時30分
 法話 第8組 専念寺 羽向貴久子師

真宗講座 しんしゅうこうざ
 テーマ「御文」に学ぶ
 第1回 1月31日(火) 午後2時~4時
 第2回 2月28日(火) 同
 第3回 3月28日(火) 同
 講師 同朋大学特任教授 廣瀬 惺師
 ※詳細については2頁をご覧ください。

春季彼岸会 しゅんきびがんえ
 3月19日(日) 午後1時30分
 お勤めに続いて第6回みどろコンサート
 ※詳細については4頁をご覧ください。
 3月20日(月) 午後1時30分
 法話 第2組 順念寺 左右田智世師

帰敬式 ききようしき
 帰敬の集い 3月29日(水) 午後2時
 帰敬式 4月11日(火) 午前11時
 ※詳細については2頁をご覧ください。
花まつり はなまつり
 3月31日(金) 午後1時~4時
 一色町仏教会が主催する、スタンプリーの今年のゴールは赤羽別院です。
報徳会 ほうとくえ
 4月11日(火) 午後1時
 法話 第31組 蓮福寺 敏郎師
農朝法話 じんじょうほうわ(年初七時)
 1月13日(金) 第9組 精立寺 島山貴利師
 1月28日(土) 同 正向寺 大溪 正浩師
 2月13日(月) 第10組 樂安寺 藤井 明敏師
 2月28日(火) 同 願正寺 三村 謙作師
 3月13日(月) 第11組 正念寺 平野 眞師
 3月28日(火) 同 常照寺 山下 正文師

新年 謹賀



あけましておめでとうございませう
 輪番 三浦 真教

旧年中は、赤羽別院がお勤めする法要をはじめ教化センターが取り組む各種事業に対し、格別のご配慮とご協力を賜り、また新たに発足した赤羽ブロック世話会の活動には、多数のご参加をいただき厚く御礼を申し上げます。別院では、新たに安楽寺住職・伊奈祐師の責任役員就任と併せ、改選期を迎える教化センターの新体制確立のもと、次の三事業を重点目標に、更なる事業の充実を期して参る所存であります。

一、報恩講等各種法要・法座の充実
 一、帰敬式実践運動

年頭に想う
 教化センター 間島 享
 ター主幹

あけましておめでとうございませう。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。さて、教化センタースタッフの任期も残りわずかになりましたが、これまで同様、別院と教化センターが車の両輪の如く連携を密にし、互いに補い合い、進めて参る所存です。世の価値観や個々の事情がどう変化しようとも「死すべき命を生きる身」は何ら変わることはありません。どうか、この身の事実を尋ねてお参り下さい。また、本年は地域教化センター設立十周年です。更なる教化事業の遂行に向けて飛躍の年になることを願い、有縁の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

本願念仏のみ教えに感謝 報恩講を厳修

穏やかな秋晴れに恵まれた10月14、16日の三日間、赤羽別院の報恩講が厳修された。報恩講は、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、一人ひとりが本願念仏の教えを確かめ、味わう最も大切な御仏事です。この法要を機縁として、仏に成る道を歩むことが真宗門徒の務であり、証ではないでしょうか。



山崎秀健師の法話

二日目は四日市市浄園寺・大賀光範師より、昨年7月に起きた障害者施設を襲い、大勢の人々の命を奪った事件の容疑者の心理と、優生思想との関連についての見解をお話戴いた。

最終日は、第17組正法寺・山崎秀健師が「念佛成佛これ真宗」と題し、宗祖の出家・得度の動機に関し、家系図を手掛りとして解説された。また、四十八願の「聞我名字」についても繰り返し述べられた。

今年度も、赤羽ブロック世話会をはじめ、坊守会・第13組門徒会等多くの方々のご協力を得て、無事に厳修することができました。

今後とも、別院護持に際し格別のご理解とご協力を賜わりたくお願い申し上げます。次号・第50号に掲載予定です。



赤羽別院の歴史 その8

昭和20年の三河地震からまもない同28年、この地を襲った13号台風により、西三河南部の村々では、災害復興の先が見えないうえに、農作業では塩害に苦勞し、ひたすら忍耐の日々が続いた。

別院においても、三河地震で本堂と山門を残して20棟余の諸堂宇を失ったことにより、境内の様子が一変し、その機能は著しく低下の一途を辿り、その前途を悲観せざるを得ない状況にあった。

折しも、境内地に隣接する県立一色高等学校の校舎増設整備に伴い、土地の部分交換を含む一部譲渡により境内地が縮小されるに到った。

このことは時代の流れの中での出来事とはいえ、寺の衰退の様相は否めず、年次の法要もままならず、参拝者は著しく減少し、経済的にも苦境に陥ることとなった。

この経済苦境の打開策を協議の結果、三河地震により倒壊した建物等の鴨居や柱材等木材をセリ方式で売却し、更に境内の松をはじめ樹齢80年以上の立ち木20本余が材木

業者に売却された。別院の森は、本山の許可なく樹木を伐採することは禁止されていたが、窮余の一策で強行したところ、御祝儀相場で予想を上まわる結果となり資金調達が出来た。

これにより、当面の資金確保ができたが、役員一同安堵し、これも阿弥陀様のお陰であると感謝したところであった。

伊勢湾台風が直撃

しかしながら、未だ13号台風のキズ痕が癒えぬ昭和34年9月26日、風速40m以上の超大型の伊勢湾台風がこの地を通り過ぎた。

この日の午後、沿岸部の堤防が決壊し、別院の周辺は完全に冠水し、村々の家屋や樹木等をなぎ倒し、この世は正に地獄の様相を呈し、周囲の多くの人が、赤羽別院をはじめ高台に避難した。

午後8時頃ついに本堂倒壊その時がやってきた。その様子を寺守の老僧・中村宗仁師は次のように話された。

曰く、「26日午後8時頃、山門隣にあった話所の屋根がふ



仮本堂

っ飛び、その次の瞬間あるべきはずの巨大な本堂の姿は消え失せ、台風の目に入った月影大なる中に、なぎ倒された巨大な本堂と巨木の無惨な光景が飛びこんできた。しかし、強風の中どうするともできず、阿弥陀様の安否が気がかりであったが、何故か足腰が立たず、南無阿弥陀仏を称えながら嵐が鎮まるのを願いつづけた。

27日の早暁、朝焼けとともに風が吹き返し、強い西風に変わったが、一日中物が飛び交い、屋外に出ることが危険な状況が日暮れまで続いた。

28日早朝、別院に集まった総代や門徒衆は、巨大堅固な本堂がもろもろ倒壊した状況を目にし、声もなぐ立ちつくのみであったが、幸いなことに別院の象徴である山門は、朝日を受けて雄々しい姿そのままに、悠然とした姿で立っていた。

これらの光景を目の前にした人々の思いは、御本尊である阿弥陀如来様の安否であった。しかし、巨大な建築物であり、直ちに御本尊の確認作業に着手することは危険な状態であった。

29日、総代・檀家総代会において対策を協議して、作業の段取りや要員確保が図られ、30日朝から門前衆をはじめとした人連で、御本尊の確認作業が始められた。

屋根に穴を開け、人が入れる空間を確保し、天井の板をはがして探したところ、半日が過ぎやうと御本尊の御姿を確認することができた。このように、この地を襲った三つの大きな自然災害三河地震・13号台風・伊勢湾台風は、僅か15年の間に集中して発生したのであった。

泉師・北野師の法話

秋季彼岸会を厳修

別院の秋季彼岸会は、9月21日に第11組聖運寺住職・泉敬祐師、22日に第13組福万寺衆徒・北野隆之師を講師にお招きして厳修された。

北野師は、別院の法座に迎える初の寺族以外の衆徒であったが、議題の「教興抄」に節聞するの「弥陀の誓願」を解り易くするたとえとして、豊臣秀吉が幼少の頃、見知らぬお婆さんからだんごを買った折「お前さんのごは忘れんぞ! 天下を取ったら必ずお札をする。信じておれ。」と約束し、これを実行した逸話を朗々と節談談教で話された。

帰敬式を 受式しませんか

帰敬式は「おかみそり」という名で親しまれ、生前に法名をいただいてお釈迦様の弟子となり仏法を施して生きる者となる、人生の方向転換の儀式です。

別院では、本年も本山鍵役の剃刀により帰敬式を執行します。あなたも受式しませんか。

期日 平成29年4月11日(火)
 場所 赤羽別院 御堂
 費用 二万円
 詳細は、赤羽別院またはお手次寺院にお問合わせ下さい。

真宗講座 開催のお知らせ

赤羽別院では、次により平成28年度真宗講座を開催します。

是非、御聴聞ください。

講師 同朋大學特任教授 廣瀬 惺 師

テーマ 「御文」に学ぶ
 第1回 1月31日(火) 法蔵菩薩の本願
 「未だ無智の御文」
 第2回 2月28日(火) 生死を超越する道
 「白梅の御文」
 第3回 3月28日(火) 難信の法
 「八万の法蔵の御文」

・時間 各日午後2時〜4時
 ・受講料 1回あたり500円
 ・その都度受付においてお支払ください。

第12組 37名一行 本山報恩講団体参拝



去る11月26日、第12組では、真宗本廟(東本願寺)の報恩講に37名の皆さんが団体参拝いたしました。日中法要にお参りし、この日は、いつの不思議なとくなく、仏法不思議といふことは、弥陀の弘誓になつたり、さら三首の御和讃がお勧めされました。この御和讃は、仏法不思議が説かれていますが、五つの中でも、最も不思議なのは「仏法不思議」です。

私たちが、煩惱を持った者でも、南無阿弥陀仏の教えやれたらさうな南無阿弥陀仏の不思議を説いてくださっています。

阿弥陀堂をおまいりした際に、参拝者の間で「阿弥陀さんの胸においでる方たちはどういう人？」に対して「親鸞聖人が先生と仰がれた聖徳太子と7人の偉いお坊さんたちだよ」というやりとりが聞こえました。

親鸞聖人以前から南無阿弥陀仏の教えを大切に、伝えてくださった先達より呼びかけられて、現在を生きる私たちが、御本山の阿弥陀さまのところまでお参りに来ることができた。そんな不思議なたらきがあるのだと思います。

「ようお参りましたね」と先達よりお褒めいただいたように思えました。(小栗記)

二大法要厳修 本山奉告参拝 第8組 樂安



住職並びに門徒役員の高齢いで、去る3月、親鸞聖人七五〇回御遺法要及び戦後七〇年物故者感謝法要を併せてお勤めした。第8組安樂寺(住職・伊奈祐諦師)では、二大法要が恙なく厳修できたことに感謝し、10月29日実施した本山奉告団体参拝には、住職・副住職をはじめ法要の運営に携った33名が参加した。

本廟・東本願寺に到着し山門を潜ると、12年の歳月をかけて耐震補強を施し、屋根瓦や飾り金具を一新し、見事に「富士」を復活した両堂の眩しい程の姿が目に入り、皆から感嘆の声が聞かれた。

一行は、先ず阿弥陀堂に昇堂して御本尊・阿弥陀如来に参拝し、御影堂において宗祖親鸞聖人に、それぞれ二大法要が盛會裏に厳修できたことを謹んで報告参拝した。

大寶殿で大町参拝接待所長の丁寧なお話を伺い、白書院や黒書院等を見学し、その後、鴨川沿いの料亭がらんご亭において、京料理の昼食に舌鼓を打った後、親鸞聖人が20年もの間修行に励まれた比叡山を訪れ、根本中堂にお

みんなで勤め 子ども報恩講



風の葉が色づきはじめた11月15日、第14組、西光寺では、今年も子ども報恩講が執り行われた。

午後4時の本堂に、幼児から小学生まで大勢の子供とその保護者が集まり、元気な声が響いた。

まず若院から「今日は」の挨拶になぞらえて「南無阿弥陀仏。すつと、子ども達も大きな声で「南無阿弥陀仏」で応えた。

正信偈のお勤めでは、キンの係りを募ると小学生の殆どが手を挙げる微笑ましい一幕があり、全員がご本尊の前に着座して、交代で一打ずつ打参した。

西光寺の報恩講は三日間お勤めされるが、当日はこの後音楽法要、更に、法話「教えにあつたこと」と続いた。

第14組西光寺

葬儀社を交えて 真宗の葬儀を考える会

昨今では、葬儀のあり方が急速かつ大幅に変化し、家族葬・直葬などの新造語が氾濫している。

この状況に鑑み、第14組では「真宗の仏事に適った葬儀」に取り組んでおり、その一環として9月12日、晋南市に葬儀会館を持つ5社を招いて、2回目となる「真宗の葬儀について考える協議会」が27名の出席のもと開催された。

門徒の宗教離れ・お寺の門徒離れにより念仏相統が危うくなっている今日、葬儀を仏法に出遇うご縁とするには、僧侶と葬儀社との間で「葬儀」に対する換証が不可欠である。協議会の開催に当り、僧侶側では事前に勉強会を行い、本来の葬儀のあり方を確認したうえで、お互いに理解しあうことを願って、13頁に及ぶ資料を作成し配布した。

この中で最初に取り上げられたのは狂歌で、先ずは「御本尊を主にすること」が確認された。

日中両国に多くの犠牲をもちたらしめた「満蒙開拓団」とは何だったのか。この歴史を風化させることなく後世に伝承するため、この記念館が設けられたものです。

現代から戦前へ、日本から満州へ誘うタイムトンネルに始まり、赤い夕陽に染まる広大な希望の大地、新天地での住宅模型から、戦と逃避生活や収容所生活、失意の引揚等々が写真・パネル・模型でなされています。ガイドさんの「平和な社会とは何かを、皆さんと一緒に考えていきたい」との声を耳に記念館を後にした。

次いで、当阿智村の長岳寺を訪ねた。寺の元住職・故山本慈照師は、残留孤児の帰国支援に格別ご尽力され、師の活動記録と孤児からの手紙が展示されている。この後、飯田市の元善光寺・駒ヶ根市の光前寺に参拝し帰途に着いた。

なお昼食会場では、平成28年度第9組門徒会総会を開催、各種議案は何れも滞りなく可決・承認された。

協議会のようす

第14組



12年振りに復活"都富士"

車中では住職挨拶で「二大法要実施に向けて、関係者一同が準備に取組む中で、前坊守が命終しましたが、皆さま方の重荷がさねのご協力により、参りました。

葬儀を執り行ったうえで二大法要が厳修できた」と話され、暫し篤実家の前坊守を偲ぶところとなった。

いつもながら、お寺と責任総代以下の役員・ご門徒さんの絆の太さを感じるところ大の本山奉告団体参拝であった。

満蒙開拓平和記念館視察 門徒会研修会・総会

第9組 9月7日、同会の総会を併せて開催され、長野県阿智村の「満蒙開拓平和記念館」の視察と、周辺3ヶ所の参拝を目的とするもので、27名が参加した。

「満州国」昭和初期に13年間にわたって存在した幻の国。この国に新天地を求め、「20町の地主」「満州は日本の生命線」の夢を抱き、日本から27万人もの「満州開拓団」がここに渡った。

ところが、太平洋戦争も末期の昭和20(一九四五)年、ソ連軍の侵襲で満州国は戦場と化し、開拓団の人たちは逃場を失い、祖国への帰国もままならず、避難者収容所においても、飢えと寒さで大勢の人々が尊い命をこくした。

日中両国に多くの犠牲をもちたらしめた「満蒙開拓団」とは何だったのか。この歴史を風化させることなく後世に伝承するため、この記念館が設けられたものです。

現代から戦前へ、日本から満州へ誘うタイムトンネルに始まり、赤い夕陽に染まる広大な希望の大地、新天地での住宅模型から、戦と逃避生活や収容所生活、失意の引揚等々が写真・パネル・模型でなされています。ガイドさんの「平和な社会とは何かを、皆さんと一緒に考えていきたい」との声を耳に記念館を後にした。

次いで、当阿智村の長岳寺を訪ねた。寺の元住職・故山本慈照師は、残留孤児の帰国支援に格別ご尽力され、師の活動記録と孤児からの手紙が展示されている。この後、飯田市の元善光寺・駒ヶ根市の光前寺に参拝し帰途に着いた。

なお昼食会場では、平成28年度第9組門徒会総会を開催、各種議案は何れも滞りなく可決・承認された。



満蒙開拓平和記念館

おかげさまで創業115年

仏壇・墓石 お洗濯 仏具 寺院仏具

西尾店 年中無休
西尾市徳次町下十五夜 38-1
0563-57-0763

碧南店 水曜定休
碧南市栄町 2-115 (栄町けんしん東)
0566-46-7610

愛知県下に14店舗!

お仏壇・墓石の
永田竹佛壇店 0120-150-761

いつでも「ありがとう」の気持ちで「真心」をこめて

MAGOKORO LIFE SERVICE

まごころライフサービス株式会社

本社 碧南市新川町1-24 0566-41-0188

真心ホール碧南中央 碧南市千福町1-7 0566-46-0288

真心ホール浄心 碧南市山町3-50 0566-43-5757

安ら館 安城 安城市大山町2-11-8 0566-73-6565

安ら館 碧南 碧南市天王町2-4-9 0566-43-4680

お寺の掲示板

同神悦体
たましい(神)を開き
み(体)を悦ばしめる
「仏説無量寿経」より
第九組・良興寺

カルチャーウォーク・その23

妙好人"おそのさん"縁り 龍泉寺を訪ねる

赤羽別院には何度も泊りがけで足を運ばれ、熱心にご聴聞された様子が語り継がれ、お同行との仏法談義を喜んだ「田原のお園さん」...



鈴木春山である。鈴木家の手次寺である龍泉寺は、田原城の築城とともに、文政12(1800)年に開山された...

極楽へは参れんとす」と笑って出掛けられた。お園さんには信仰上の逸話が数多くあるが、このことを知った御園首...

蓮如上人お手植イヌマキ 吉良の名刹・教蓮寺に学ぶ

五百五十年程前、蓮如上人三河教化の頃、吉良町萩原に一字が創建された。初夏には境内に美しい蓮の花が咲く、本願寺派吉良の名刹・明源山教蓮寺(住職・第十七世小野正信師)である。

活動に励まれている。毎月7日の常例法座は昼・夜二座制で、一人でも多く参加できるように配慮し、お勤めの後住職の法話を聴聞したり、各種の講座を開催している。

お寺ヨカ インストラクターによる 11月18日より開講しました。日時 毎週金曜日 午後9時~9時40分



開基千年を祝う 第14組 安専寺

天台座主慈恵大師直弟・源激大師が、長和五(1010)年に創建された安専寺は、開基千年を迎え、10月29日に衣浦グラウンドホテルにおいて祝賀会を開催、百五十名もの人々がこれを祝った。

人事 責任役員に 伊奈祐師就任

平成28年12月3日付で、第8組安専寺住職・伊奈祐師が責任役員に就任されました。就任のことは、この度、赤羽別院の責任役員を拜命致しました。

第15回御坊俳壇・川柳

俳句(順不同) 風向きに 銀本句ふ 寺苑かな 蕪ひとつ 終えていよいよ 冬近し 御坊俳壇 読みて燈火 親しめり 古城跡は 今は大寺 銀本落つ



安専寺創建千年記念祝賀会 祝賀会の様子 就任 水野 廣太郎 第13組 養林寺門徒

第6回 みどろコンサート

バイオリン・熊谷祥子 チェロ・波多和馬 アンサンブルコンサート 「おしゃべりクラシック」

物品寄贈等懇志

- 和讃卓 一卓 第13組養林寺門徒 三矢平市様 経卓 一卓 吉崎仏壇店 吉崎節子様

赤羽御坊新聞懇志

第10組 妙専 寺様 同 厳西寺同朋の会様 貴重なご懇志をありがとうございました。

編集室

私たちがご縁をいただいたお寺は、どのような歴史を辿ってきたのでしょうか。お寺の歴史で最も大事なのは「そこに生きた人々が何を大切に、何を残そうとしてきたか」ではないでしょうか。